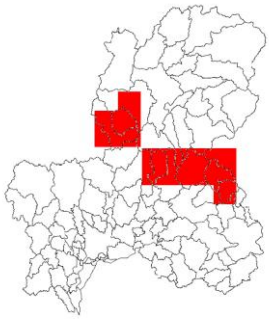
イワテヤマナシ(ミチノクナシ)	*Pyrus ussuriensis* Maxim.	情報不足
	バラ科	

選定理由	県内では産地がある程度限られる稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。県内の個体は全てまたは大半が植栽または逸出起源または人為交配由来と推定され、自生個体の分布は不明。	写真(岐阜県博物館) 標本
形態の特徴	落葉高木。葉身は卵状楕円形-広卵形、鋭尖頭、基部は円形-心形、短芒状鋸歯縁。4-5月の展葉時に、散房状総状花序に径3cm強の5-10花が着く。花筒は漏斗形。萼片5、腺のある歯牙縁。花弁5、白色。雄蕊約20。花柱5、離生。梨状果は普通芳香があり、秋に黄褐-黄緑熟し、径2-5cm、皮目を密生。萼片は多少宿存。果肉は多汁、黄白色、石細胞がある。	
生態的特徴	山地の二次林や落葉広葉樹植林に生育する。集落付近にも見られる。	
分布状況	本州北部に分布。ウスリー、朝鮮、中国。県中部に点在する。個体数は少ない。var. hondoenshis アオナシは本州中部(山梨県、長野県)に分布。	
減少要因	山林全体の林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの個体更新や生育の不良。	
保全対策	山林管理の促進による、林床の日照確保。	
特記事項	ミチノクナシともいう。国内の多くの個体はヤマナシとの人為雑種由来と推定される。	
参考文献	Flora of Japan. Volume Ⅱb. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 16. Pyrus L. H. Iketani and H. Ohashi 池谷祐幸ほか. 2010. Introgression between native and prehistorically naturalized (archaeophytic) wild pear (Pyrus spp.) populations in Northern Tohoku, Northeast Japan.(東北日本の北東北地方でのナシ属における自生植物と野生化した史前帰化植物の浸透交雑). Conservation Genetics :11巻1号.	

文責:高野裕行